



Let's go!
おまち~

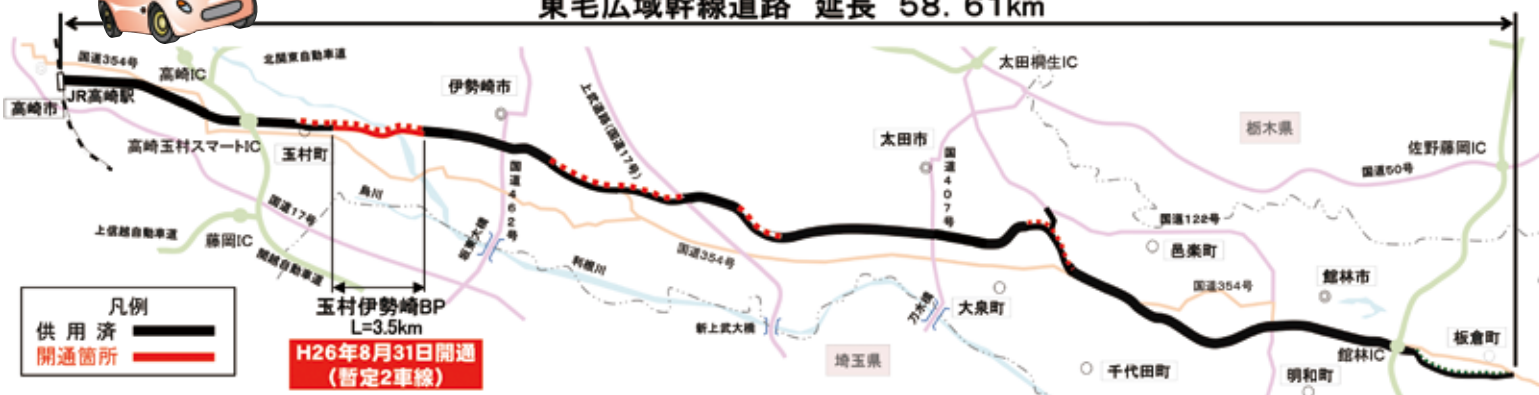
**Vol.
85**

2014. 9. 1 (隔月1回1日発行) 編集発行：群馬県県土整備部都市計画課(まちづくり推進係)

国道354号バイパス 東毛広域幹線道路 全線開通！



東毛広域幹線道路 延長 58.61km



高崎玉村スマートインターチェンジ



伊勢玉大橋



太田市東別所町地内（東別所交差点）



大泉町北小泉地内

【連載】観光まちづくり最前線
地域を歩くレポート No.5

江戸中期にブレイクする成田詣の今昔
～観光プロモーション・五感の観光まちづくり・
国際観光が学べる町・成田山新勝寺

【投稿】平成26年度 まちづくり講演会及び表彰式

マーチィ'sROOM

- マーチィに訊け 地名由来の探求
“みなかみ町須川”の由来
- マーチィ VOICE ファシリテーター紹介
- マーチィの掲示板 吉岡町から来た柴田さん

【まちづくりイベント情報】

- マーチィの独り言 県内で行われるイベントの紹介 編集後記



都市計画区域マスタープランの改定について

表紙：東毛広域幹線道路 全線開通！



都市計画区域マスタープランの改定について

群馬県都市計画課 都市計画係

群馬県が改定を進めている「都市計画区域マスタープラン」についてご紹介します。

○「都市計画区域マスタープラン」とは何か？

県が、将来の都市づくり(まちづくり)の基本的な方針について定める計画で、概ね20年後(平成42年)の人口などの社会情勢を見据えた上で、10年後の都市の将来像を記載します。

(記載内容)

- ・都市計画の目標(基準年：平成22年、目標年次：平成32年)
- ・区域区分(市街化区域・市街化調整区域)の有無
- ・主要な都市計画の方針など

○どんな役割があるのか？

「都市計画区域マスタープラン」に即して以下のことを決定します。

①市町村が策定する「都市計画マスタープラン」

②県や市町村が定める都市計画

- ・土地利用(市街化区域・用途地域・地区計画など)
- ・都市施設(道路・公園・下水道など)
- ・市街地開発事業(土地区画整理事業・工業団地造成事業など)

○今までのマスタープランとは何が違うのか？

「持続可能なまちづくり」への転換を図るため、主に以下の3点を変更します。

①「個別の都市計画区域」から「広域区域」へ

将来像実現に向けて、まちづくりの転換を図るためには、市町村や都市計画区域の枠組みを超えた、より「広域的な区域」でまちづくりを行うことが必要です。

そこで、従来は県内に34ある都市計画区域毎に作成していたマスタープランを、経済圏や生活圏が同じである「4つの広域都市計画圏」にまとめて策定します。

②「部分最適」から「全体最適」へ

「都市の将来像」を実現するためには、従来の個別課題への対応だけではなく、まち全体で不都合な部分が生じないように調整を図ることが必要です。

そこで、「まちのまとまり※」を維持するために、次の方針等を明記します。

- ・住宅地は、「まちのまとまり」等に立地誘導し、郊外では新たな開発を原則抑制する。
- ・商業地は、鉄道やバスを利用して多くの人が集まりやすい拠点への一層の集積を図る。

郊外での大型商業用地の新たな設定は、原則、抑制するが、まち全体で不都合が生じないよう、広域的な観点から、既存の商業に影響を及ぼさないことが整理された場合のみ、設定することができる。

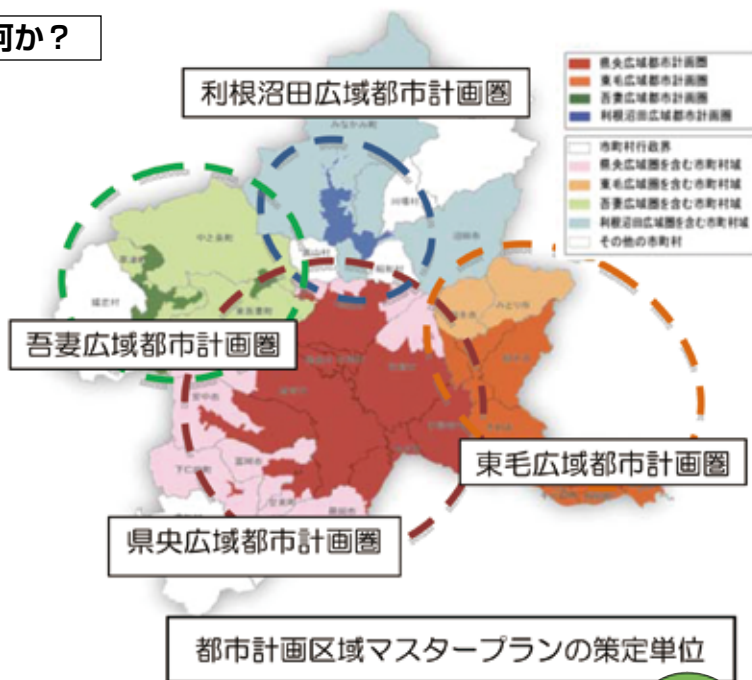
- ・工業地、流通業務地は、高速道路インターチェンジ、国道等の幹線道路の結節点周辺の拠点に配置する。

※「まちのまとまり」とは、中心市街地や合併前役場周辺、既存集落などを想定しています。

③「まちのまとまり」同士の機能相互補完を明確化

今後、単独の「まちのまとまり」では、都市機能が維持できなくなる恐れがあることから、「まちのまとまり」間で機能を連携していくことが必要です。

そのため、「まとまりの役割」・「まとまり同士をつなぐ連携軸の役割」を明確にします。



○まちづくりをどのように転換し、どのような都市構造を目指すのか

群馬県におけるまちづくりの課題を解決し、「ぐんまらしい持続可能なまち」を実現していくために、次の「3つの視点」が重要であると考えています。

	視点①	視点②	視点③
これまで	市街地の拡大、施設や人口の分散を容認するまちづくり	自動車中心の生活スタイルに合わせた交通網の整備	県内各都市が機能を競い合うまちづくり
これから	まちのまとまりを保持するまちづくりへ	道路ネットワークと公共交通との連携を重視するまちづくりへ	各都市の特徴を活かして総力戦で人やモノを誘致するまちづくりへ
どのように	公共交通を核として、まちのまとまりが明確で、メリハリの効いた市街地へ	まちのまとまり間で移動手段が多様に確保された移動環境へ	産業・観光・バックアップ機能などそれぞれが特徴を持つ都市の連合体へ
目指すべき都市構造	まちのまとまりが明確で公共交通が成り立つ市街地	まち単独で担いきれない機能を周辺のまちと連携して相互に補完できる多様な交通手段を確保できる都市	複数の都市が一つの都市として連携する都市群
イメージ	①今ある「まちのまとまり」周辺の集積の保持	②「まちのまとまり」間での鉄道等を活用した機能の連携・補完	③対外競争力を持つ産業の広域交通沿線への集積

○見直しの背景

- ・群馬県では、人口減少や超高齢社会が急速に進行していて、このままでは高齢者の住みにくい、社会保障費が多額に必要な県土が形成されることが予測されています。
- ・そこで、県では「人口増加時代のまちづくり」から「人口減少局面でもぐんまらしい持続可能なまちづくり」へと、徐々に転換を図っていきます。

【これまで】人口増加時代のまちづくり

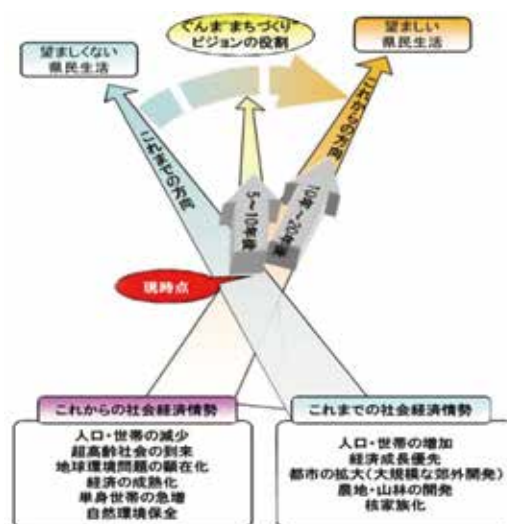
- 人口増加を前提に都市を拡大
- 自動車中心の生活に対応した郊外開発
- 各都市が単独で多くの機能を保有



実現に向けてまちづくりの転換が必要

【これから】人口減少時代のまちづくり

- 人口減少を前提とした公共交通や都市施設の再構築
- 魅力的な「まちのまとまり」づくり
- 多様な交通手段と利便性の確保
- ぐんまの強みを活かした産業の誘致等





観光まちづくり最前線 No.5 地域を歩くレポート

江戸中期にブレイクする成田詣の今昔 ～観光プロモーション・

五感の観光まちづくり・国際観光が学べる町・成田山新勝寺

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

成田山といえば関東では初詣と節分の豆まきが有名な観光地。調べてみると1000年の歴史がありました。また夏になると話題となる「土用の丑の日には鰻」というキャッチ～平賀源内の発案が定説となっています～の主役の「鰻」もまた成田の名物です。今回は平成25年度のゼミで研究対象とした千葉県成田山の新勝寺と門前町についてレポートします。

■成田詣の起こり～歌舞伎の「成田屋」はいままでいう地域プロモーション

千葉県観光入込調査によると平成24年の成田山新勝寺の観光入込数は998万人であり、東京ディズニーリゾートの2750万人に次ぐ県内第二位の入込客数を記録しています。「成田のお不動さま」と親しまれている新勝寺の起源は平安時代の平将門の乱に遡るとされています。現在につながる飛躍的な興隆・観光地となった要因は、佐倉藩主の祈願寺となったことでの江戸での布教活動～いわゆる出開帳(10回記録されています)、江戸中期以降の旅ブーム、さらには初代市川團十郎との関わりによるところで大きかったと見られます。

初代市川團十郎は新勝寺の近隣の出身でした。子宝に恵まれなかった初代團十郎は成田山の当時の本堂である薬師堂で一心に子授けを祈願します。その結果待望の長男を授かります。お不動さまへの祈願が成就し長男を得たことに感謝をあらわした親子共演の舞台が大ヒット。それ以降、市川家は「成田屋」という屋号を使うようになりました。

一方、江戸中期に人口増加から安定期に差し掛かる頃～ちょうど八代將軍吉宗の頃には、都市近郊の行楽地が誕生するとともに、江戸近郊の成田山新勝寺は、江戸から3泊4日の格好の観光地となり、文化年間(1804～18)には、成田詣が激増してきます。

出開帳による成田山新勝寺の知名度向上効果、そして歌舞伎の演席での「成田屋」の掛け声は現在でいう地域プロモーション活動であり、観光地への誘客活動の基本であるマーケットでのプロモーション活動の原型と見てとれます。



初代團十郎似姿

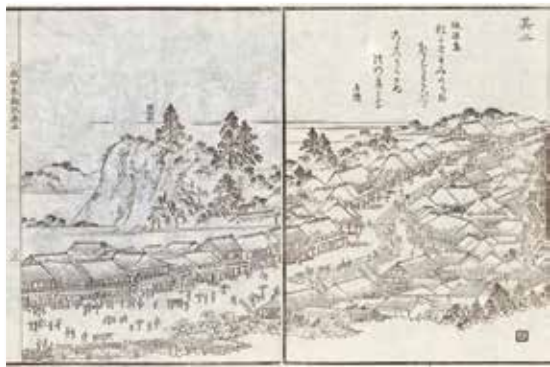
〔近世の成田山開帳年表〕

回	西暦	年号	開帳種別	場所
1	1701年	元禄14年	居開帳	※自寺
2	1703年	元禄16年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(1)
3	1721年	享保6年	巡行開帳	下総国 他
4	1726年	享保11年	巡行開帳	常陸・下野国 他
5	1733年	享保18年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(2)
6	1751年	宝暦元年	巡行開帳	江戸府内 他
7	1762年	宝暦12年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(3)
8	1764年	明和元年	巡行開帳	常陸・武蔵国 他
9	1789年	寛政元年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(4)
10	1806年	文化3年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(5)
11	1807年	文化4年	居開帳	※自寺
12	1809年	文化6年	出開帳	匝瑳郡八日市場見徳寺
13	1814年	文化11年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(6)
14	1815年	文化12年	居開帳	※自寺
15	1821年	文政4年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(7)
16	1822年	文政5年	居開帳	※自寺
17	1833年	天保4年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(8)
18	1835年	天保6年	居開帳	※自寺
19	1842年	天保13年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(9)
20	1844年	天保15年	居開帳	※自寺
21	1855年	安政2年	居開帳	※自寺
22	1856年	安政3年	出開帳	深川・永代寺八幡宮社地(10)
23	1857年	安政4年	居開帳	※自寺

※資料:小倉博氏講座資料「成田山と成田詣で」

■川魚料理の横綱「鰻」と国際的なお店が混在する成田山参道

JR成田駅から新勝寺までは約800m。門前といえば一直線で平坦な参道のイメージがあるが、成田山の門前は緩やかな下り坂で左右に湾曲・蛇行する変化のある参道です。参道には、十二支の石のモニュメントがあり、自分達や先生の干支のモニュメントを探しながら散策を楽しみました。新勝寺に近づく木造三階建の風情ある料理屋さんが軒を連ねています。印旛沼や利根川の近さを感じさせる「鰻料理」、店先の匂いからもわかります。70店舗位はあるというインターネット情報を先生に見せても、昨今の鰻の高騰の影響からか軽く話題を変えられてしま



成田名所図会(第5巻)に描かれている
成田山・新勝寺の参道の風景



園十郎が寄進したとされる額堂
(1861(文久元)年に建立された
重要文化財)。



成田山・新勝寺の入口・総門から、
私たちの新勝寺探訪が始まりました。

いました。店先での蒲焼の匂い「五感を活かした観光地(味覚は次回に)」の極意を成田参道で脳裏に刻みました。

また成田といえば国際空港。参道の入口近く、あるいは横丁に入ると国際的なレストランやバーも見られます。我々はBACKPACKER ☆ FUJIに投宿、素泊まり2700円。リビングには世界地図が貼られており、投宿したお客さまの出身国にピンが。また何故か、出身国のお札やコインが貼られていました。当日も外国からのお客さまが滞在されており、挨拶を通じて国際交流を楽しめる、別の意味の楽しみ方も成田ならではの滞在の楽しみでした。



緩やかな蛇行とアップダウンのある参道は、
まち歩きにリズムを与えています。



今度は「鰻を食べた〜い!!」。もう一度訪れたい必然性を感じた次第です。



外国人観光客の立ち寄りそうなお店
も・・・新旧混在した夜の風景!!



BACKPACKER ☆ FUJI の
リビングは国際的。訪日
された外国人観光客の母
国の紙幣が壁にピンで留
められていました。



外国人観光客の立ち寄りそうなお店
も・・・新旧混在した夜の風景!!

江戸の旅人の成田へのアプローチを辿る

江戸後期の旅ブームの火付け役となった東海道を中継点とした『成田道中膝栗毛』をもとに、ゼミでは主人公の成田詣のルートと道中での観光活動の研究・追体験(巡検)を試みました。

主人公たちは、日本橋にあったとされる行徳河岸から船に乗り、小名木川を經由して千葉縣市川市の行徳で下船、その後陸路で中山法華経寺等に立寄った後に船橋(泊)へ。翌朝、船橋の大神宮に参拝の後、木下街道で大和田、臼井、佐倉を通して新勝寺に向かいます。現在では上野から成田まで京成電鉄の特急で約一時間。江戸時代は2日かけて道中の神社仏閣や茶屋(現在のカフェ)、道中の会話を楽しみながらの超スローツーリズム時代～そこには現在にはない楽しみが彷彿とされました。特に我々が惹かれたものが舟運。墨田区の実証事業で隅田川ではない区内の都市内河川の舟運事業の体験モニターで小名木川を船上から見た時、江戸の旅人が実感したであろう光景が甦りました。

航空機・新幹線網の整備等、移動のスピードアップによる経済効果や観光誘致圏の拡大そのこと自体を否定するものではありませんが、対局にあるスローツーリズムの展開は、忘れてきた「旅の楽しさ」を思い起こさせてくれるのではないのでしょうか? あらためて成田詣の旅を追体験して感じた次第です。

(坂本祐樹・山根真理子(院ゼミ))



行徳河岸から成田に向かう際に通ったと思われる
小名木川の船上からの風景。江戸の旅人が見た風
景とは異なる風景がありましたが・・・思いは江
戸の旅人、のんびりとした旅になりました。





平成26年度まちづくり講演会及び表彰式

群馬県 県土整備部 都市計画課 まちづくり推進係

群馬県都市計画協会と群馬県主催による「まちづくり講演会及び表彰式」が平成26年7月2日(水)、群馬会館(2階)ホールで開催されました。

加速する人口減少・超高齢化社会において、「健幸＝健康で幸せ(身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること)」をまちづくりの基本に据えた新しい都市モデル『Smart Wellness City(以下SWC)』について、筑波大学大学院人間総合科学研究科の久野譜也教授にご講演頂きました。講演の中で、健康につながるまちづくりを実現する為には、中心市街地の活



性化に加えて、公共交通や歩道などのハード面の整備を進め、歩くことを中心に捉えることが重要である歩きやすく、自然と歩かされてしまうまちづくりが実現出来れば、無意識のうちに健康増進を促すきっかけになると述べられました。(SWC首長研究会HP <http://www.swc.jp/>)



また群馬県における「まちなまのま」との魅力を高める施策の参考とするため、新潟市都市政策部長の池田博俊様をお迎えし、新潟市におけるSWC事業の取り組みについて事例紹介をして頂きました。さらにSWCの実用化に向けたパネルディスカッションでは、コーディネーターの群馬県建設技術センター理事長の堺浩志様、パネリストの山本前橋市長、久野教授、池田部長により、熱い議論が行われました。



「群馬県まちづくり功労者表彰」は太田市尾島東部土地地区画整理組合 理事長 志村 武様が表彰されました！



群馬県まちづくり功労者とは、魅力あるまちづくりの推進に顕著な功績のあった個人、団体もしくは市町村に対し、群馬県知事より感謝状を贈呈するものです。今年度受賞者の志村理事長は、尾島東部地区において、平成4年の土地地区画整理組合立ち上げ準備段階から、組合設立認可となつてから現在までの間、初代理事長として、長年地元の土地地区画整理事業の積極的な推進を図り、宅地利用増進や住環境整備に多大な貢献をされていることから、今回の受賞となりました。



「群馬県まちづくりファシリテーター」に22名の方々が認定されました。

ファシリテーターとは、「交渉などを円滑にする」という意味を持ち、ワークショップの開催・進行にあたり、参加者の意見を引き出して議論を円滑に進める補助者・調整役のことです。群馬県ではパートナーネットワーク講座を開催し、入門編・発展編・応用編を全て受講された方には、県内のまちづくりを担う人材として群馬県知事より「群馬県まちづくりファシリテーター」の称号を授与しています。今年度認定者は下記の通りです。



永田 瑞穂さん	矢島 利幸さん	三井 創史さん	栗原 秀和さん
高坂 知宏さん	境野 和孝さん	高田 直樹さん	稲垣 純さん
田口 勇夫さん	竹市 哲之さん	萩原 利雄さん	大豆生田 克巳さん
鈴木 峻さん	黒澤 福富さん	新井 司さん	飯塚 信一さん
桐渕 崇さん	松崎 嘉雄さん	岩田 洋和さん	山根 真理子さん
渡部 唯子さん	新木 寿梨さん	以上22名	



マーチィ's ROOM

マーチィに訊け！

●群馬地名由来の探求●



ねえ、マーチィ。“みなかみ町須川”について教えてクリ！

【今月の一枚】

まち's クリ



マーチィ



旧三国街道須川宿・たぐみの里

須川(すかわ)には他に東峰須川、西峰須川、入須川、上須川と「須川」がつく大字が五つもあり、旧新里村だったんだよ。須川は川の名前で、この川の水について入須川地区では、「須川川の水を鉄瓶に使うと三年もたない」とか「鉄瓶に穴があく」と言われたほど酸性が強く、現在でも魚がすまない川とされていて、「酸川(すかわ)」と呼ばれ、「須川」の地名になったんだよ。江戸時代は三国街道の宿場で須川宿として栄えていたんだ。現在はたくさんの人が訪れる「たぐみの里」として昔の村の雰囲気が守られているんだよ。

参考資料：「わたしたちの地名ぐんま」(社)群馬県子ども育成団体連絡協議会発行 「群馬の地名をたずねて」(株)上毛新聞社

マーチィ VOICE

●ファシリテーターの紹介●

伊勢崎市 企画部企画調整課 栗原 秀和



栗原秀和さん(一番右)



講座の様子

私は、平成25年度のパートナーネットワーク講座を受講し、群馬県まちづくりファシリテーターに認定していただくことができました。講座では、藤岡市や桐生市のまち歩きやワークショップなど、ふだんの仕事ではなかなかできない貴重な経験をさせていただいたと思っています。中でもワークショップのファシリテーターは緊張し、いろいろな立場の人の意見を聞きながら、時間内に議論をまとめていくというのは難しいものだと思えました。講師の天下先生、アシスタントの滝沢さん、ほかの参加者の皆さん、事務局の皆さんには大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

伊勢崎市の境島村では、世界遺産「田島弥平旧宅」の効果的な活用方法や周辺環境整備について検討するために、地元住民で組織する「境島村まちづくり推進会議」を開催しています。推進会議の「女性部会」には、天下先生にお越しいただき、観光客へのおもてなし対応などについてさまざまなアドバイスをいただいております。昨年度の成果として、境島村の目指す姿や境島村への来訪者に守っていただきたいルール、おもてなしの具体的な方策などをまとめた、「境島村まちづくりビジョン」の骨子ができあがりました。本年度は、骨子をもとに、「境島村まちづくりビジョン」を策定する予定です。

世界遺産登録後、境島村のまちづくりはまだ始まったばかりといえますが、地元住民が中心となって、少しずつ前進を続けております。皆さんもぜひ一度、世界遺産「田島弥平旧宅」に足をお運びください。

マーチィの掲示板

吉岡町から来た柴田さん



今年の4月より人事交流職員として、吉岡町から群馬県都市計画課都市計画係に派遣されました柴田と申します。

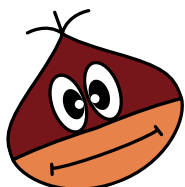
今まで携わってきた業務は都市計画とは関連が薄い業務のため、法令等を把握していないことはもちろん、用語にすら不慣れなことが多々あり、課の皆さんにご指導及びご教示いただきながら、日々仕事をしております。

吉岡町は人口減少及び超高齢化社会においても、町単体でみれば人口は増加しており、今後も人口が増加し続けていく町とされています。そのため住みよい環境整備や適切な都市化への誘導を図り、町の発展を継続していくためにも、都市計画が重要な一翼を担うと考えております。また都市計画は問題が生じてから対処するのではなく、先に先に決定していく必要があります。そこで都市計画の持続性及び法令について一生懸命学びたいと考えています。

実は、「おっ!! まっちい〜」に文書を書くのはこれが2回目になります。今回85号ですので、時が立つのは早いなとしみじみ思いました。



まちづくり イベント情報



第7回 燈籠宵まつり

歴史資産を活かしたまちづくりに取り組んでいる「まちづくり玉村塾」による、ペットボトルで作成した手作り燈籠イベントです。雅楽や龍舞も予定しています。

■ 10月13日(祝・月)雨天中止 17:30~19:00

■ 玉村八幡宮境内(玉村町下新田1)

【お問い合わせ先】

事務局 玉村町

生涯学習課文化財室

TEL 0270-30-6180

当日 玉村八幡宮

TEL 0270-65-2305



鬼石宿お月見フェスタ

『鬼石をもっと楽しく!もっと元気に!』をモットーに、地元でまちづくりを行っている人々でスタートした、まちなか回遊型イベント。おさんぽギャラリーやまちなかスタンプラリー等開催します。また、「Night JAZZ Onishi」も同時開催します。

■ 9月13日(土)

10:00~19:00

■ 鬼石多目的ホール・

まちなか商店

【お問い合わせ先】

鬼石宿おさんぽフェスタ

実行委員会(高田)

TEL 080-5388-6203



地域の宝を掘り起こす! 観光事業支援

まちづくりラボ・サルベージ株式会社



- ・観光事業支援
- ・観光協会運営支援
- ・特産品を活かした商品、メニュー開発
- ・ご当地グルメ開発
- ・店舗運営支援 他

ひのじゃがカフェ FB ページ



おいねめし(檜原村ご膳)FB

* 東京都檜原村「ひのじゃがカフェ」で開発、メディアで話題の清流かき氷「ひのじゃがミルク」

The creation of new Hometown

新しいふるさとの創造

建設コンサルタント
株式会社 高崎測量

〒370-0002 高崎市日高町580番地
TEL 027-361-2271(代表)
FAX 027-363-4743
URL www.takasoku.co.jp
E-mail tk-mail@takasoku.co.jp

- ・都市計画
- ・測量調査
- ・土木設計
- ・建物補償

帝京大学 観光経営学科
Department of Tourism Management

八王子キャンパス オープンキャンパス
2014年 8月24日(日)・9月21日(日)
10:00~16:00(受付時間15:30まで)

- ・大学説明会/入試説明会
- ・学生によるキャンパスツアー、フリートーク
- ・予約不要、入退場自由
- ・詳しくはホームページをご参照ください

学際的教養、豊かな国際感覚、
確かな専門知識をあわせ持った
人材を育成します。

- ・観光産業を経済学、経営学の流れの中で学ぶ。
- ・「旅行業務取扱管理者」資格取得に向けての万全のフォロー体制。
- ・実地で旅行業務が学べる「実習授業」が豊富。

八王子キャンパス総合グループ TEL : 0120-508-739 〒192-0395 東京都八王子市大塚 359
お問い合わせ先 URL: http://www.teikyo-u.ac.jp

マーチの独り言



今号の表紙にも掲載しましたが、先日『東毛広域幹線道路』が全線開通しました。この全線開通で高崎―板倉間の所要時間が23分短縮されるだけでなく、沿線に企業を誘致するなどして、県内商工業の発展と物流面でも大きな効果が期待されています。また東毛地域の観光地への注目も集まっており、自治体は観光イベントを計画するなどして、道路整備と一体になったまちづくりに向けた動きが活発になりつつあります。私も今度走ってみたいと思います!

編集担当



有料広告を随時募集しています。詳細につきましては、下記のお問い合わせ先まで、お気軽にご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

群馬県県土整備部都市計画課まちづくり推進係 TEL 027-226-3665 URL <http://www.pref.gunma.jp/06/h5810001.html>